

P o l j e

〔ポリエ〕とは、石灰岩地域で溶食作用によってできた広い凹地、平野のことです。
秋吉台エコ・ミュージアムは佐山ポリエと呼ばれる谷あいには建っています。

〒754-0302 山口県美祢市美東町赤
TEL・FAX: 08396-2-2622
E-mail: akiyosiecomuseum@yahoo.co.jp
HP: <http://www.c-able.ne.jp/~mitou-14/>

秋吉台 思い出や～秋の七草(しちぐさ)一六(いちろく)通い… 遠い昔の話です

立秋とはいえ、それは暦の話。残暑は一層厳しくなる一方。中旬頃に数日間わずかに暑さがやわらいだと思ったのも束の間で、再び猛暑の到来。ほんのさきやかに暑さがしのげたのを身体が「やれやれこれで秋が来る」と「都合の良い方」へと覚えてしまい、猛暑の再来はより暑く感じました。秋吉台の草原は晴天猛暑続きでカラカラに乾いて疲れ気味です。例年ならすでに咲いているはずの花も見つかりません。まだ咲いてないようです。特にハギの開花は遅れているようです。白花マルバハギ、今年も咲いて欲しいです。この猛暑の中でも秋の装いや春の芽生えの準備も見られます。そして秋の七草も咲きそろいつつあります。「秋の七草、全員集合」が楽しみです。

(写真は龍護峰、御鉢山)



季節の花 猛暑でも 可憐に咲かずに いられない！

ハナトラノオ 日当たりの良いところに生えるシソ科の多年草。ここ数年見ているところは、ガマなどに混じって湿地に生えています。きれいな花のためか家の庭や花壇で見かけることが多いです。今年はそこでイノシシが泥浴びをして踏み荒らしてしまい、花数がかなり少ないです。

マルバツユクサ 荒地や側溝沿いで多く見られるツユクサ科の一年草。ツユクサに似ていますが、葉が丸く大きく縁が波打っています。その割には花は小さめです。側溝では他を寄せ付けないくらい群生していることがあります。そして地中の根には閉鎖化があります。

カワラナデシコ 日当たりの良い草原に生えるナデシコ科の多年草。秋の七草の一つで、最も早く咲きます。早いものは5月下旬に咲いていることもあります。花は淡紅色で濃淡はさまざまです。たまに白色の花を見かけます。草原に花の少ない夏場では、遠くからでも見つけることができます。今年は猛暑続きで花の色が全般に淡いようです。秋になって涼しくなる頃には濃くなって欲しいです。



シカ

子鹿のバンビはかわいいね～～ でもね・・・

最近シカが激増しています。彼らが秋吉台の草原にやって来るのは大概是食事のためです。いろんな草を食べているようです。アクの強いもの、苦いもの、美味しくないだろうと思えるものなども食べています。しかも新芽先端の柔らかい部分をちょっとだけ。貴重な絶滅危惧種も、彼等には関係ありません。こんな小さなものを食べなくても、もっと効率のよい大きな葉っぱがあるだろうに……。真名ヶ岳のキキョウヶ原にキキョウの花がほとんど見られないのも、彼らによる食害でしょうか。キキョウは多年草なので、また芽を出します。一年草はそうはいきません。ツボミを食われてはタネができません。



オオカモメヅル コカモメヅル があるのだから

オオカモメヅルの花が咲いているとのことで、連れて行っていただきました。数え切れないほど通っている道路沿いに咲いていました。コカモメヅルがあるのだからオオカモメヅルもあるのではと以前から思っていました。一見してコカモメヅルとあまり変わりはなく、花に毛があって、花柄が太いようです。それともう一つ。これは花の見かけではなく、咲いている時間帯。コカモメヅルは朝日が昇る頃にはだんだんとしぼみ始め、午前中には閉じてしまいます。オオカモメヅルを撮影したのは午後2時を過ぎていましたが、まだパッチリと開いていました。



ジャコウアゲハ幼虫大量発生

果実も落ちた葉も尽きた！おっとスイカはいつ食べる？

数年ぶりにジャコウアゲハの幼虫が大量発生しました。5mほど伸びていたウマノスズクサのツルも全部食べられてしまいました。成長した幼虫は逐次黄色いサナギへと変化していきます。近くの建物の壁、植木鉢などでじっとしています。ウマノスズクサの葉裏にもいます。いずれはその葉も食べられてしまい、落下するかもしれません。まだまだ生まれたばかりの小さい幼虫もたくさんいます。残念なことに、ようやく結実して大きくなり始めた果実も茎を食われて枯れてしまいました。こんな大量発生の年は食草不足になります。そのためか羽化がうまくできないことが多いようです。



こんなところでサナギにならなくて

9月の行事



9月26日(土) 「クロヤツシロランの散策」

どこかにあるはず、まぼろしの花「クロヤツシロラン」を探しに出かけませんか。